

スマートフォンアプリを活用した区民参加型生きものの調査

ショウジョウトンボ
© カノコキセワタ

サルスベリ
© 月見山

ヤマトシジミ
© 忘れ水

ハラビロカマキリ
© 港区のR&M

ゴマダラチョウ
© アマガエルモドキ

ユリカモメ
© ヴィットーリオ・
エマヌエーレ2世

港区生きもの 探検隊

ちょうさけっか
調査結果

令和7年

7月19日～8月31日

港区生きもの探検隊

を開催しました！

はっけん
発見した数

2,627件

はっけん しゅすう
発見した種数

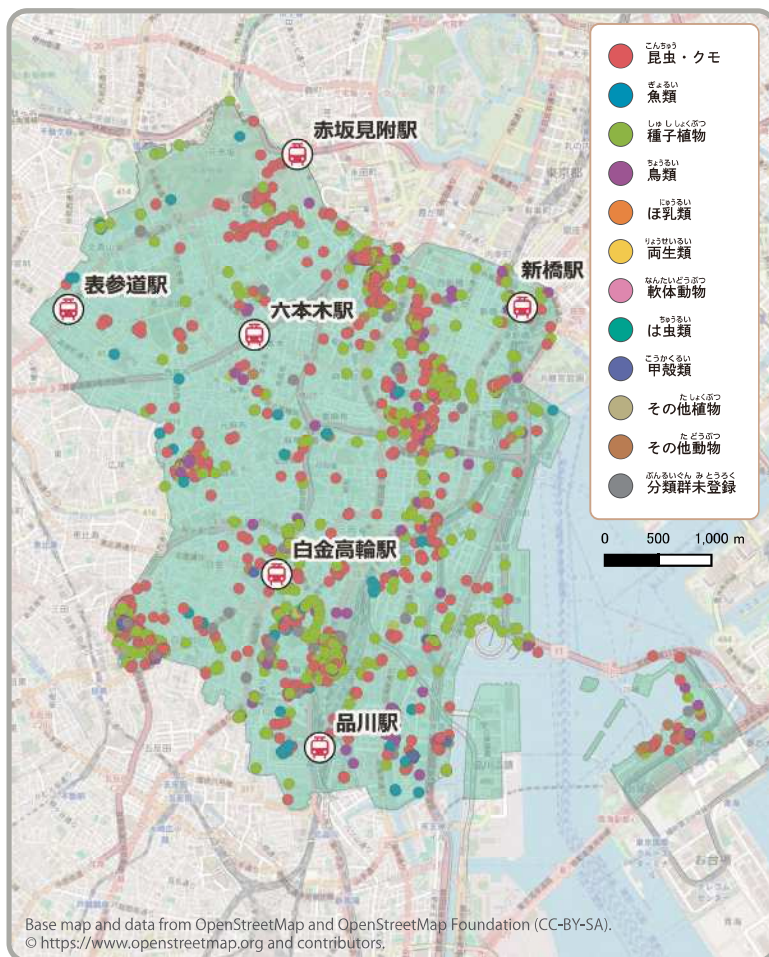
792種

さんか にん
参加した人数

371人



身近に見かけた生きものの写真を投稿できるスマートフォンアプリ「バイオーム」を活用して、区内の生きものの発見情報を集めました。調査の結果、最も多く見つかった生きものの分類は「種子植物」となり、続いて「昆虫・クモ」「鳥類」、そして「魚類」となりました。公園やオープンスペースにある大小さまざまな緑地や、古川や運河などの水辺環境がある港区の特徴が表れる結果となりました。



生きものの写真は、今回の調査で投稿されたものを使っています。(種名+©ユーザー名)

投稿が多かった
生物種の紹介



©Ikitoshiikerumono



アブラゼミ

カメムシ目セミ科

ふとうめい かつしよく はね とくちよう ちゅうがた
不透明な褐色の翅が特徴の中型のセミ
です。7月から9月にかけて、「ジリ
ジリジリ…」と鳴きます。名前の由来
は、この鳴き声が油ものを揚げている
音に似ているからだと言われています。

ヤブラン

キジカクシ目キジカクシ科

8月から10月にかけて、淡い紫色の
小さな花をたくさんつけます。野生で
は山野の木陰に生育しますが、古くか
りよつか ぞうえん りよう
ら緑化や造園に利用されており、斑入
りなどの園芸品種もあります。

©おたんなすび



©TAKAHIRONARI



シオカラトンボ

トンボ目トンボ科

平野から山地の、池や沼などの流れ
のない水辺に生息するトンボです。
成熟したオスの腹部は白い粉を吹き
ます。メスは4月から10月にかけて、
水面に腹部を打ち付けるようにして
産卵します。

有栖川宮記念公園 (水域周辺)

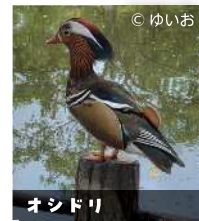
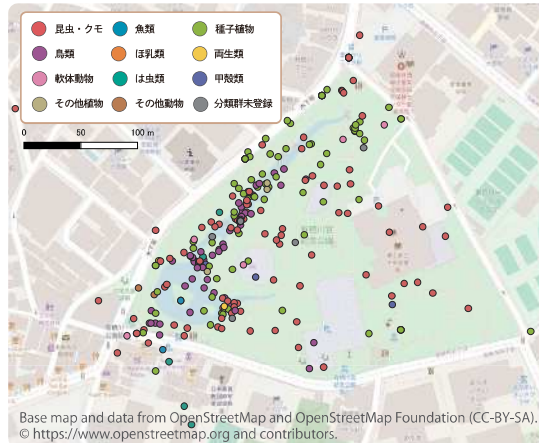
自然共生サイトに認定!



区内の自然共生サイトについて
有栖川宮記念公園のイベント情報



令和7年3月に「自然共生サイト」に認定された有栖川宮記念公園(水域周辺)の付近では、水鳥やトンボなど、水辺があるからこそ生息・生育できる種が多く投稿されました。区では、有栖川宮記念公園(水域周辺)における生物多様性の保全・再生に向けて、引き続き、生物モニタリング調査や、生きものに触れ合うことができるイベントを実施していきます。



CHECK

人間の活動による影響が原因で、地球ではたくさんの生きものたちが絶滅の危機にあります。今回の調査では、東京都レッドデータブックに区部において絶滅の恐れがあると掲載された種が、30種以上発見されました。



ヒガシニホントカゲ

昼行性のトカゲで、幼体は尾が美しい青色になります。開発等による生息場所やエサとなる昆虫などの減少により数を減らしています。



オオミスアオ

美しい青白色の翅が特徴の、ヤマユガの仲間です。幼虫はサクラやコナラ、カエデなど様々な広葉樹の葉を食べます。雑木林の伐採など生育環境の悪化により数を減らしています。

発見された外来種

「外来種」とは?

元々は生息していなかった地域に、人間によって持ち込まれた生物を「外来種」といいます。外来種の中には、農作物や家畜、ペットのように、私たちの生活に欠かせない生物もありますが、一方で、地域の自然環境や農林水産業などに大きな影響を与え、生物多様性を脅かす恐れのあるものは、侵入や拡散を防止しなければいけません。

特定外来生物



ミシシippiaカミミガメ

ペット用に輸入されたものが遺棄され拡がったとされています。雑食性で在来の動植物を捕食します。本種は条件付特定外来生物で、一般家庭等での飼育や無償譲渡は可能ですが、野外への放出や販売・購入・頒布は原則禁止されています。

特定外来生物



アカボシゴマダラ (大陸産種)

人為的な放蝶によって日本に侵入したと考えられています。後翅の赤い斑紋が特徴で、ゴマダラチョウなど外来種のチョウとの競合が心配されています。飼育や生きたままの運搬、野に放つことは原則禁止です。駆除する場合は幼虫時が効果的です。

日本の侵略的外来種ワースト100



ヒロヘリアオイラガ

インドまたは中国から、樹木の移動に混入して侵入したと考えられています。幼虫の背中には毒のあるトゲが生えており、触れると電気が走ったような鋭い痛みが生じるため要注意です。様々な種類の樹木の葉を食害します。

生きものと共存できるまちづくりに向けて

都心にありながら、水辺や緑に恵まれた港区。今回の調査では、港区の自然を象徴する様々な生きものの投稿が寄せられました。地球では様々な生きものがお互いに関わり合いながら生きています。私達人間もその中の一員であり、自然の恵みに支えられています。身近な生きものに目を向けることで、私たちが自然とともに生きていることを実感いただくことができたのではないのでしょうか。今後も、生物多様性の普及啓発や、保全・再生に向けた取組を実施し、人と生きものが共存できるまちづくりを進めていきます。

問い合わせ先

港区生きもの探検隊について

港区 環境リサイクル支援部 環境課 緑化推進担当 TEL: 03-3578-2331

スマートフォンアプリ「バイオーム」について

株式会社バイオーム TEL: 075-432-7622